

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	18人	国語B	18人
② 算数A	18人	算数B	18人
③ 理科	18人		

5 留意事項

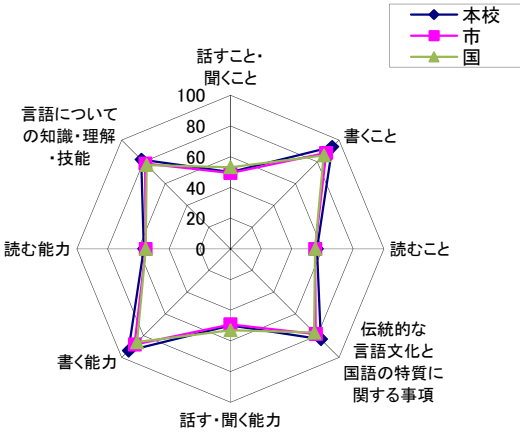
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

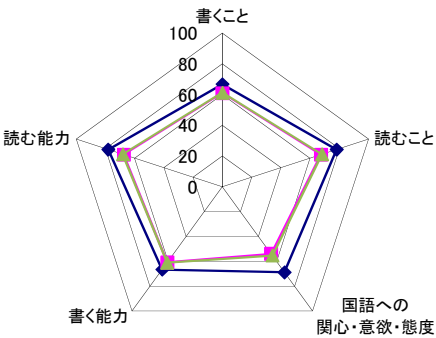
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	50.0	49.3	53.0
	書くこと	93.8	88.2	86.0
	読むこと	56.3	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.3	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	50.0	49.3	53.0
	書く能力	93.8	88.2	86.0
	読む能力	56.3	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	82.1	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	66.7	60.9	61.1
	読むこと	78.1	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	68.8	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	66.7	60.9	61.1
	読む能力	78.1	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では約90%以上の児童が肯定的な回答をしており、国語を学ぶ必要性を認識している児童が多い。また、「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問では肯定的な回答が80%を超え、意欲をもって取り組んでいる児童が多い。
●「読書は好きですか」の質問では、県や全国の平均と比較すると「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の回答割合が高い。国語の学習の大切さは理解しているが、自ら進んで本を読むことへの意欲が持てない児童が見られる。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

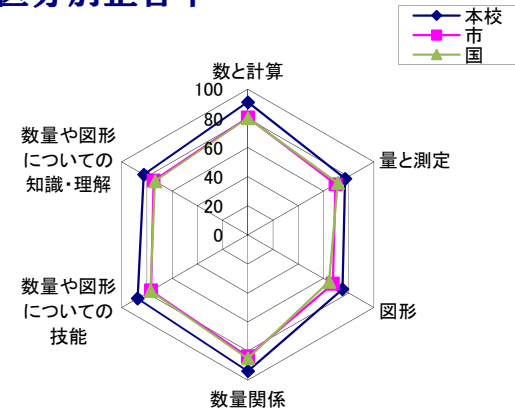
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●A領域の「聞き方の説明として適切なものを選択する」設問の正答率は市平均よりは高いものの、全国平均を下回り、説明の内容の要点を捉えながら聞くことに課題が見られる。	・話し合いなどにおいて、話の趣旨や要点を適宜確認しながら論点に合った話し合いの仕方を指導することが大切である。 ・朝のスピーチなどの活動を活用し、相手の言いたいことを正確に捉えられるよう、メモの活用などを日常的に指導し、話す・聞く力を育むことが大切である。
書くこと	○A領域、B領域とも正答率は、市と全国の平均よりも高かった。要旨を捉え、文章の中の言葉を活用したり、決められた字数で書くことに一定の成果が見られる。 ●一方で、インタビューの様子の内容をまとめて書く設問では、取材した内容の理解が十分ではなかったため、情報を整理してまとめることができなかった。内容への理解に課題が見られる。	・作文指導等において、自分の意見や考えを明確にしてから書かせることが大切である。そのためには、意見や考えのもとになる相対する説明や情報について、しっかりとした理解が必要であり、重点的に指導していくことが重要である。
読むこと	○A領域での正答率は市や全国の平均とあまり変わらないが、B領域では10%以上も上回っている。特に、登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える設問では大幅に高い。 ●A領域での筆者が引用している言葉と地の文との違いについて理解できていないことに課題が見られる。	・読解能力を育むために、叙述に即した読みの指導を行うこと、多様な文章に触れられるよう、読書活動の充実を図ることが大切である。 ・文章の構成や表現、書き方などの内容や作者の意図を読み取ることが必要である。引用する理由や目的は何のためかなど、作者の意図を分析できるような学習方法を指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○A領域での正答率は市や全国の平均よりも上回っており、学年別漢字配当表に示されている漢字の読み書きに一定の成果が見られる。 ●文を構成する主語と述語との照応関係を捉えることに課題が見られる。特に、「何だ」「どうした」「どんなだ」といった述語の様々な表現について捉えられていない。	・学習した内容を確実に定着させるために、習得した語句を文章の中で進んで適切に使うよう、日常的に確認させながら継続的に指導する。また、ただ漢字や語句を書くだけでなく、文の中で扱い、文として書いていく指導も必要である。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

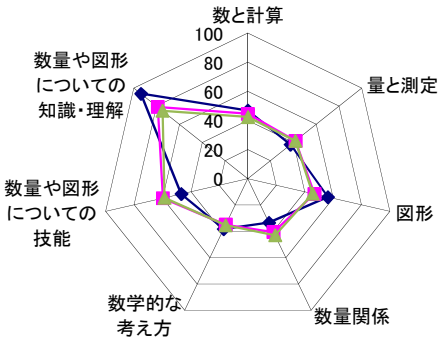
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	91.1	80.7	80.1
	量と測定	77.1	69.6	71.3
	図形	75.0	67.4	64.5
	数量関係	93.8	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	87.5	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	82.6	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	46.9	44.6	42.4
	量と測定	37.5	41.8	41.7
	図形	56.3	46.8	45.6
	数量関係	33.3	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	38.2	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	46.9	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	93.8	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では約90%の児童が肯定的な回答をしており、算数を学ぶ必要性について認識している児童が多い。また、公式やきまりのわけを理解したり、もっと簡単に解く方法がないか考えたりすることを意識している児童も多い。
●「算数の勉強は好きですか」の質問では、「当てはまらない」の回答率が県や全国平均よりも高い。算数学習の大切さは理解しているが、算数を取り組むときの意欲が十分でなく、苦手意識をもつ児童も見られる。

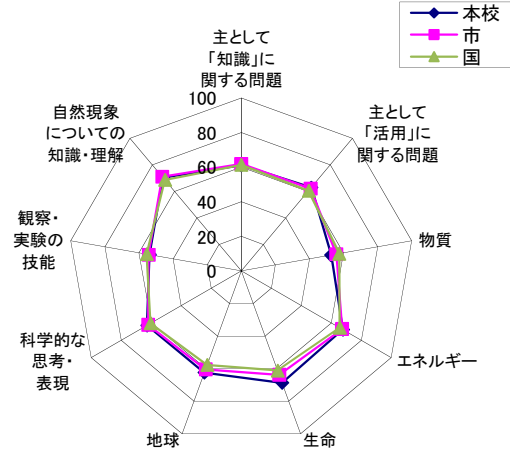
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○A領域、B領域とも正答率は、市と全国の平均を上回っているが、特にA領域は約90%ととても高い。分数や小数が入っている四則計算もよくできており、成果が見られる。 ●B領域の四捨五入を活用したり、概数にしてから計算したりする設問で、正答率が低く、四捨五入や概数の意味の理解に課題が見られる。	・目的や場面によっては、四捨五入や概数を用いると、より簡単に分かることを理解できるように継続した指導が必要である。 ・商が小数になる除法などの忘れやすい計算についてはその方法を確認し、適切に処理できるよう復習する。
量と測定	○A領域の正答率は、市や県の平均よりも高い。特に場面から時刻を求めたり、分度器を見て角度を求めたりすることに一定の成果が見られる。 ●B領域の正答率は、市や県の平均を下回った。日常の場面から条件を与えられて解く場合、その意図を理解して答えを出すことに課題が見られる。	・求めることは何か、そのとき条件はあるのかどうかなど、多くの情報から解決につながるものを確認していく。解決の見通しを明確にしてから取り組むように指導することが大切である。また、見直しの観点を示した上で、全員で解法を振り返ったり、友達と相互評価する活動を取り入れることも効果的である。
図形	○A領域、B領域とも正答率は、市と全国の平均を上回っている。特にB領域は高く、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせの設問では100%の正答率である。 ●図形の特徴を使って、答えを記述で証明する設問には課題が見られ、正答率が低い。	・図形の性質や作図などの指導は継続して行っていくとともに、それらがある場面と関連させて考えることのできる指導の工夫もしていく必要がある。学習したことを活用できるようにすることは、数学的な考え方を育てるには重要な要素である。
数量関係	○A領域はとても高く、正答率が90%を超えている。特に、棒グラフや円グラフの読み取りに成果が見られる。 ●B領域の正答率は低く、市や全国の平均を下回っている。示された割合を利用して答えを求めることに課題が見られる。	・割合の意味やそれを使った計算方法を理解できるよう繰り返し復習していくことが大切である。また、割合は日常生活においてよく使われる内容であるため、日常生活において割合が当てはまる場面を取り上げ、求めていくような指導の工夫も必要である。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	61.1	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	62.9	62.2	60.5
区分等	物質	52.7	55.7	57.4
	エネルギー	67.7	67.2	65.6
	生命	68.8	63.8	61.2
	地球	62.5	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	62.9	62.2	60.5
	観察・実験の技能	53.8	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	70.3	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「理科の勉強は大切だと思いますか」「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では約80%の児童が肯定的な回答をしており、理科を学ぶ必要性について認識している児童が多い。また、「観察や実験を行うことは好きですか」「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」では約90%の児童が肯定的な回答をしており、理科への興味関心は高い。

●「理解の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問では肯定的な回答が約65%と高くない。理科の学習内容が普段の日常生活にも広く使われているということを意識して捉えている児童が少ない。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ問題では、結果を見通して考えられた児童が多く見られる。 ●正答率が低く、市や全国の平均と比べても低い。実験で扱う様々な物質の特徴、変化させたときの物質の状態を捉えることに課題が見られる。	・実験をしていくにあたり、実験器具の名称や使い方を十分に押さえる。また、予想を立てさせるとともにその理由も考えさせていく指導も必要になる。予想から考えること、実験結果から分かることを継続して指導していくことが大切である。
エネルギー	○正答率は市、全国と比較するとやや高い。目的や意図を考えて実験を構想することに一定の成果が見られる。 ●振り子の運動の規則性を振り子時計の調整に適用する設問の正答率が低く、実際のものに应用したときにどうなるのかについて捉えることに課題が見られる。	・学習内容が実際の生活場面において、どのように活用されているか指導していく必要がある。実験をして結果を得るだけでなく、日常生活で活用されていることを紹介することも必要である。
生命	○正答率が市、全国の平均よりも高い。特に、生物の特徴についてはよく理解している児童が多く、一定の成果が見られる。 ●顕微鏡の適切な使い方に課題が見られる。器具の操作について、どういうときに、何を動かし、そしてどうなるのかについて十分な理解が必要である。	・実験器具の基本的な使い方を指導することはもちろん、実験や観察をしているときにうまく取り組めない場合にどのような操作をすればよいのか児童が考える機会をつくることも必要である。
地球	○正答率は市、全国の平均よりも高い。特に、水の性質について捉えている。 ●月や星座、雲の動きについての設問では、正答率が低く、観察記録を基に考察して分析することに課題が見られる。	・天体については、時間、季節、見るときの方位などによって、動き方や見え方が変わることある程度実感を持った指導ができるよう工夫していくことが必要である。

宇都宮市立清原北小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」では肯定的な回答が100%であり、児童に基本的な生活習慣が身についていることがうかがえる。

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」「自分には、よいところがあると思いますか」では、全員が肯定的な回答をしており、児童一人一人の自己肯定感が高い。そのため、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」においても全員が肯定的な回答をしており、学校生活への意欲がとても高い。

○「家で、学校の授業を復習していますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」では、肯定的な回答の割合が高く、家庭学習の習慣が身についている児童が多い。

○「いじめはどんなことが理由にあってもいけないことだと思いますか」の肯定的な回答が100%であり、児童の人権意識が育っていることを示している。

●「新聞を読んでいますか」「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」では肯定的な回答の割合が低い。また「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」も肯定的な回答が低い。地域や社会についての関心を新聞やニュースからつなげる手立てを講じる必要があることを示している。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」では、「4時間以上」と「1時間以上、2時間より少ない」の割合が県平均を超えている。一方、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」では、1時間未満の割合がほとんどである。宿題や家庭学習をする習慣はあるが、終わるとテレビやビデオ・DVDにむかってしまう傾向がある。宿題の内容や量を工夫することも必要であり、また読書の励行を継続して行い、目標を決めるなどして取り組み方を工夫する。